

スポーツウエルネス学学位プログラム(博士後期課程)

基礎科目(必修)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OBTS011	課題解決型データ分析論特講1		1	1.0	1	春BC	応談	岡田 幸彦	受講生が、自身の研究課題、問題意識、保有データに対して、社会科学の立場から適切な実証研究計画を立てられるようになることを目標に、社会科学のデータ分析手法や研究デザインを学ぶ。特に、受講生の研究課題、問題意識、保有データに対して適切な分析手法について、深い理解を得られるように、対話形式で授業を進める。社会科学の実証分析手法は多様である。これらを適切に使いこなせるように、授業では典型的な実証研究論文を取り上げる予定である。	開講日：6/24, 7/1 (予定) 受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL001と同一。 対面
OBTS012	課題解決型データ分析論特講2		1	1.0	1	秋AB	応談	岡田 幸彦	世の中には、多様な社会データが存在している。これからの時代に利用可能な各種データに対する最先端の解析技術・方法論を事例紹介するとともに、それらのスポーツウエルネス領域への応用可能性を議論する。なお、授業では、筑波大学サービス工学ビッグデータCoEの成果を取り上げることを中心に進める予定である。	開講日：10/28, 11/4 (予定) 受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL002と同一。 対面

専門科目(必修)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OBTS111	スポーツウエルネス研究演習I		2	1.0	1	通年	随時	尾縣 貢, 久野 譜也, 水上 勝義, 山口 香, 柴田 愛, 高橋 義雄, 辻 大士, 和久 貴洋, 清水 和弘	博士論文の構成の輪郭を固めると同時に、課題解決型プロジェクトワークの具体化を進める。スポーツウエルネス領域に関する研究及び課題解決型プロジェクトワークについて指導教員を中核としてメンター教員を含めての指導のもとに研究計画を立案し、研究テーマの設定を行う。 中間報告会Iに終日参加すること、および、研究テーマおよび研究計画を発表する。	受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL101と同一。 対面
OBTS112	スポーツウエルネス研究演習II		2	1.0	2	通年	随時	尾縣 貢, 久野 譜也, 水上 勝義, 山口 香, 柴田 愛, 高橋 義雄, 辻 大士, 和久 貴洋, 清水 和弘	博士論文の中核となる研究を遂行し、その内容に関する考察力を高める。スポーツウエルネス領域に関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。 中間報告会IIに終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表する。 スポーツウエルネス研究演習IIまたはIIIで、国際学会で1回以上の発表を行う(海外での調査研究に代えることができる)。	受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL102と同一。 対面
OBTS113	スポーツウエルネス研究演習III		2	1.0	3	通年	随時	尾縣 貢, 久野 譜也, 水上 勝義, 山口 香, 柴田 愛, 高橋 義雄, 辻 大士, 清水 和弘, 和久 貴洋	博士論文合格できる取りまとめ力を身につけるスポーツウエルネス領域に関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究成果をまとめる。 スポーツウエルネス研究演習IIまたはIIIで、国際学会で口頭発表を1回以上行う。(海外での調査研究に代えることができる)	受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL103と同一。 対面
OBTS114	課題解決型プロジェクトワークI		3	1.0	1	通年	随時	尾縣 貢, 久野 譜也, 水上 勝義, 山口 香, 柴田 愛, 高橋 義雄, 辻 大士, 安藤 梢, 田邊 解, 和久 貴洋, 清水 和弘, 渡部 厚一	世界や日本におけるスポーツウエルネス領域リーダーとして、社会的問題や課題を解決できる論理的・実践的能力を身に付ける。スポーツウエルネス領域で学んだ知識や能力を実務に生かすための経験やトレーニングを行う。具体的には、スポーツウエルネス領域に関わる官庁、地方自治体、NPO、民間等の機関など実際の受け入れ現場において、課題設定を行い、その解決のためのプロジェクトを実施する。 この授業では、課題解決型プロジェクトワークを実施する上で、理解すべき重要な研究方法であるアクションリサーチ法についての理解を深めるとともに、事前計画(実習テーマ設定、計画書の作成、発表)を行う。	受講はスポーツウエルネス学学位プログラム(後期課程)の学生に限る 02JL105と同一 4/12(水)、5/10(水)、7/12(水)の7, 8限に全員での授業を実施、その他はゼミごとの開講になります。 対面

OBTS115	課題解決型プロジェクトワークII	3	2.0	2・3	通年	随時	尾縣 貢, 久野 譜也, 水上 勝義, 山口 香, 柴田 愛, 高橋 義雄, 辻 大士, 安藤 梢, 田邊 解, 和久 貴洋, 清水 和弘, 渡部 厚一	<p>世界や日本におけるスポーツウエルネス領域リーダーとして、社会的問題や課題を解決できる論理的・実践的能力を身に付ける。スポーツウエルネス領域で学んだ知識や能力を実務に生かすための経験やトレーニングを行う。具体的には、スポーツウエルネス領域に関わる官庁、地方自治体、NPO、民間等の機関など実際の受け入れ現場において、課題設定を行い、その解決のためのプロジェクトを実施する。</p> <p>この授業では、フィールドワーク、事後報告（フィールドワーク報告書の作成、発表）を行う。事後報告では、フィールドワーク実施内容、実施中に生じた問題点などに対する解決策を提示、新たな問題提起、大学院で学習した理論・議論の再構築等に関する考察及び発表を行う。</p>	受講はスポーツウエルネス学学位プログラム（後期課程）の学生に限る。02JL106と同一対面
---------	------------------	---	-----	-----	----	----	--	--	---